

平成21年度第10回農林水産技術会議（平成22年2月16日）
における農林水産研究基本計画の見直しに関する意見の概要

《資料2「重点目標に盛り込むべきポイント（案）」について》

- ・ 資料2「重点目標に盛り込むべきポイント（案）」（以下、ポイント案と言う。）においては「自給力」という言葉を使っているが、「自給力」と「自給率」のどちらの言葉を使うか検討する必要がある。
- ・ 自給率向上に資する取組としては、ポイント案における「食料安定供給研究」の中に、生産性向上やコストダウンを目指す技術が盛り込まれているが、生産量自体を増やさなければ自給率は向上しない。県や独法などの現場では新品種の創出に力を入れており、そうした国内農産物の需要拡大に向けた取組こそが、自給率向上に資するのではないか。
- ・ 新たな食料・農業・農村基本計画（以下、基本計画という。）の柱の中には研究と無関係のものもあるので、柱立てをそろえることは難しいと考えている。
- ・ 基本計画と農林水産研究基本計画（以下、研究基本計画という。）に大きなずれがないようにすべきではある。
- ・ ポイント案について、「地球規模環境変動対応研究」は世界的に注目されている分野だが、この中に「⑤開発途上地域の農林水産業の技術向上」が入っているのは疑問。「④地球温暖化への対応」と「⑤開発途上地域の農林水産業の技術向上」を同じ枠内に入れるならば、その枠の題名に国際研究というワードを入れるなど工夫が必要。
- ・ 「新需要創出研究」の中に「⑧高度生産・流通管理システム」が入っているのも疑問。この部分は生産性向上に資する技術として「食料安定供給研究」の方に入れてはどうか。
- ・ 同じ分野に属する取組がいろいろな場所に記載されるとわかりにくいので、何をどこに書くかは重要。「⑤開発途上地域の農林水産業の技術向上」については、干ばつ対策等は「地球規模環境変動対応研究」に入れても良いが、それ以外の部分は「食料安定供給研究」に入れるべき。
- ・ 生産性の向上だけでは自給力は上がっても自給率は上がらないとの指摘があったが、その観点からすると、県や独法で取り組んでいる品種改良等の内容を含む「⑥高品質な農林水産物・食品」は「食料安定供給研究」に含めた方が良い。ただし、そうすると「新需要創出研究」の内容が薄くなってしまう。
- ・ 研究基本計画は、予算編成や独法見直しにあたって、研究開発の必要性を主張するための重要な根拠となる。従って、閣議決定を行う基本計画に沿った柱立てとする方が、重みが増して望ましい。また、独法の研

究テーマだけでなく、民間等の取組も記載した方が、説得力がある。

- 基本計画においては、米、麦、大豆や飼料作物などを自給率向上に資する作物として位置付ける見込み。従って、研究基本計画でも作物別に検討することが必要だと思う。米、麦、大豆については、「食料安定供給研究」の「①農産物の自給率向上と安定供給」に移し、果物や野菜、地域特産の漬物等の加工品といった、付加価値は高いがカロリーが低く、自給率向上にあまり貢献しないものについては「新需要創出研究」の「⑥高品質な農林水産物・食品」に残してまとめれば、基本計画とも整合性が取れて良いのではないか。
- 鳥獣害対策は「地域資源活用研究」に入っているが、地域資源の利用技術とは言い難く、生産性向上に資するという意味で、「食料安定供給研究」に入れるべきではないか。
- 鳥獣害対策は生産面だけの問題ではないので、「食料安定供給研究」というよりは、地域全体の問題としてとらえる方が適切ではないか。
- 基本計画においては、鳥獣害対策を地域全体の問題と位置付け、自給率向上対策としては位置付けない見込みなので、整合性を取るという意味では、「地域資源活用研究」に入れたままの方が良い。
- 鳥獣害対策技術は地域の問題として残し、農薬や罟、ネットの開発など、主に民間企業で取り組んでいる作物保護の研究を本文の「食料安定供給研究」に入れてはどうか。
- 基本計画との並びという観点では、「新産業創出」という言葉も盛り込むべき。「新需要創出研究」の中に入れられないか。また、バイオマス利用は「地球規模環境変動対応研究」「新需要創出研究」「地域資源活用研究」の3つに当てはまる。例えば稲わらの利用等は「地域資源活用研究」に入るが、藻類の利用等は入らず、別の場所に記載する必要がある。
- バイオマス利用は複数の柱立てに属するので研究基本計画の中で何度も記載されることになるが、同じ内容を繰り返すのは望ましくなく、書き方を工夫する必要がある。
- 個々の取組は網羅されているので、あとはどのようにまとめていくかが課題。複数の柱立てに属するものが多いので、平面的に考えると分かりにくい。三次元の球体のような図を作ってまとめると分かりやすいのではないか。基本計画のどの部分が研究基本計画に関わるのかについても図で示せれば理想的。
- 国民やメディアの目線に立つと、目玉は何かということを明確に示すのが親切。
- 柱立てごとに整理されたポイントをつなげると、研究基本計画の目玉

となるように構成できればと考えている。

- ポイント案の4つの柱は非常に良くできている。4つの要求で画が作れる。自給率は一番重要で40%、温室効果ガス25%削減、新需要は20年後に6兆円など、ポイント案にある4つの柱立てごとに明確な数値目標を定めれば、図にしやすい。
- 政府の掲げた温室効果ガス25%削減という目標のほか、昨年末に公表された新成長戦略や総合科学技術会議の決定なども参考にして、研究開発の目標を定めるべき。政府の目標を達成するために研究開発が必要だということを示すことにより、研究開発の重要性をアピールできる。また、最近では林業も重要視されているので、これについても目標を掲げてはどうか。
- 林業は注目されてきているので、「森林整備と林業・木材産業の持続的発展」は、「農山漁村における豊かな環境形成と地域資源活用」よりも前に記載してはどうか。
- ポイント案にある4つの柱を軸に持つ立体図に、同じくポイント案にある①～⑩の課題を位置付けると分かりやすい図になるのではないか。
- 4つの軸が四方に出ている球体図だと、軸がそれぞれ別の方向へ拡散していく印象。図にするならば、ピラミッドを逆さにした形の方が、成長していくイメージを示すことができている。
- 図で示すと、図を作った人には分かりやすいが、図を作る議論に参加していない国民にとっては、かえって分かりにくくなる可能性もあるので注意すべき。
- 構成については、4つの柱を「シーズ創出研究」が支えるという構成は分かりやすく良い。
- 鳥獣害対策は林業にも関わるのではないか。
- 鳥獣害対策は林業独自のものがあるのであれば「森林整備と林業・木材産業の持続的発展」の中にも記載してもよいのではないか。

(以上)